

### 第3学年 学級活動（2）指導案

日時：平成26年10月10日（金） 6校時  
 児童：3年2組 男13名 女13名 計26名

【研究主題】ふるさとの復興を担う「人づくり」の展開 ～「自分から」かかわり、学びを深める児童の育成～

小学校の頃、全校朝会の校長先生の話で「津波でんでんこ」を聞いた。内陸に住んでいるために、津波の危険はないものの、海の近くに住むということは、津波の危険といつも隣合わせで住むということなのだと思ったのを覚えている。また、大学時代の友人が静岡県の海沿い出身で、まず大きな地震が起きたら、高台へ逃げるということをいつも意識して生活していたと話していた。それは、友人の祖母が友人に小さい頃から、特に話していたことだそう。小学校の時に聞いた「津波でんでんこ」という言葉と友人の話につながり、わたしの心の中に強く残った。

それから、約10年。震災当時、わたしは内陸にいた。仕事からの帰り、施設のロッカー室にいた。強い揺れの中、悲鳴も聞こえ、そんな中を家族は大丈夫だろうか、家は壊れているのではないかと不安になりながら、何とか家に帰ろうと渋滞した道を帰った。もしも災害に遭った時のことを、全然家族で話していなかったので心細い思いをした。

子どもたちも、いつ何時でも災害にあうことがあるかもしれないと心の準備をする必要がある。また、沿岸に住む以上は、津波が来るかもしれないということを忘れてはならない。この本単元を通して、昔から沿岸に住む人たちの言い伝えの言葉「命でんでんこ・津波でんでんこ」の大切さを考えることで、いざという時に、自分の命は自分で守ることができる子に育ててほしい。

#### 1 題材名 命でんでんこって何？

#### 2 題材の構想

(1) 学習指導要領に示されている指導目標及び内容との関連

○目 標

学級活動を通して、望ましい人間関係を形成し、集団の一員として学級や学校におけるよりよい生活づくりに参画し、諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度や健全な生活態度を育てる。

○内 容

[第3学年及び第4学年] [共通事項]の中での位置付け

学級を単位として、協力し合っ楽しい学級生活をつくとともに、日常の生活や学習に意欲的に取り組もうとする態度の育成に資する活動を行うこと。

【共通事項】

- (1) 学級や学校の生活づくり
  - (2) 日常の生活や学習への適応及び健康安全
- カ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成

○学習の系統（本校の防災教育の学年別目標から：観点は「生きる力」を育む防災教育の展開 文部科学省より）

	ア 知識、思考・判断	イ 危険予測・主体的な行動	ウ 社会貢献・支援者の基盤
低学年	☆教師や放送の話や指示を注意して聞き、理解できる。 ☆日常の生活や災害発生時の安全な行動の仕方が分かる。	☆安全・危険な場や危険を回避する行動の仕方が分かり、素早く安全に行動できる。 ☆危険な状況を見付けた時、身近な大人にすぐに知らせることができる。	☆高齢者や地域の人と関わったり、友達と協力して活動に取り組んだりすることができる。
中学年	☆地域で起こりやすい災害や地域で過去に起こった災害について知り、安全な行動をとるための判断に生かすことができる。 ☆被害を軽減したり、災害後に役立つものについて理解したりすることができる。	☆災害時における危険を認識し、日常的な避難訓練等を生かして安全を確保する行動ができる。 ☆危険な状況を予測し、日常からの環境整備に気を付けることができる。	☆自分たちの生活を支える人々に感謝する気持ちを持ち、周りの人々と協力して人の役に立つ行動をとることができる。
高学年	☆災害発生のメカニズムの基礎や過去の災害例から危険を理解することができる。 ☆備えの必要性や情報の活用について考え、安全な行動をとるための判断ができる。	☆日常生活において、災害についての知識を基に、正しく判断し、主体的に安全な行動をとることができる。 ☆被災の軽減、災害後の生活を考え、備えることができる。	☆地域の防災や被災時の助け合いの重要性を理解し、自分から進んでボランティア活動に参加することができる。

(2) 題材構想図

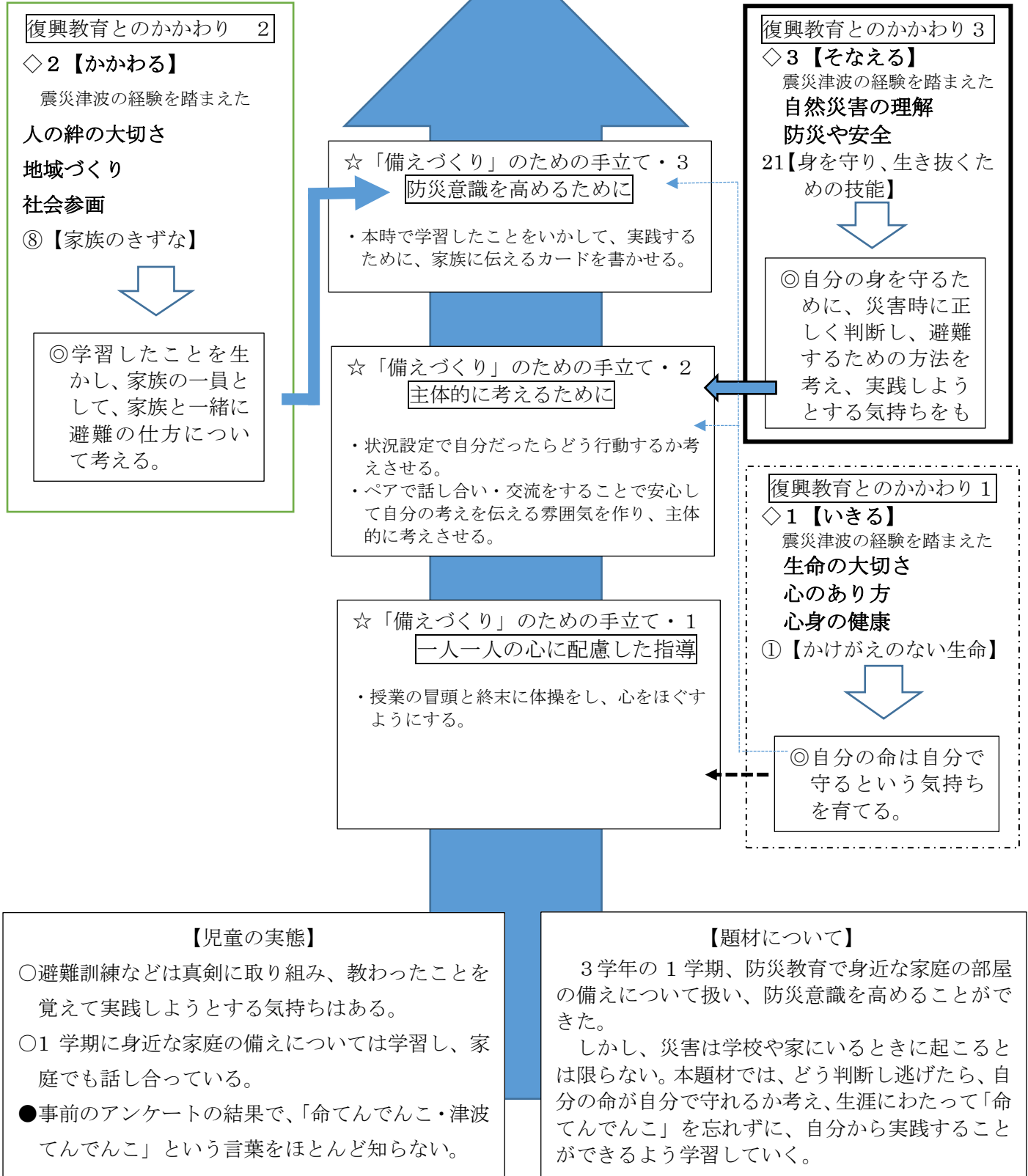
◎本校の復興に向かう合言葉＝「自分から」

防災教育＝復興教育の基礎学習

《本題材で目指す子の姿》

【備えづくり・・・つなぎ合う】

津波発生時には、どう避難したらよいかを主体的に考え、自分の身を自分で守ろうとする子



(3) 題材の目標

集団生活や生活への 関心・意欲・態度	集団の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活への 知識・理解
仲間と協力して、進んで話し合い活 動に取り組もうとする。	災害時の安全な行動につい て主体的に考えることができ る。	災害時の安全な避難の仕方につ いて正しい知識をもつことができ る。
【防災教育との関連】イ 危険予測・主体的な行動 ☆災害時における危険を認識し、日常的な避難訓練等を生かして安全を確保する行動ができる。		

3 指導計画

	活動内容	いつ	指導上の留意点・資料	評価規準（評価方法）
事前	実態調査 ・「命てんでんこ」という 言葉についての認知	朝活動	「命てんでんこ」という言葉 をアンケートすることで、 本時で考えやすくする。	
本時	○「命てんでんこ」につい て話し合う。	学級活動	地震がおきたときに、自分 で正しく判断し避難できるよ うに、「命てんでんこ」の大切 さを考えさせる。 (本時の展開を参照)	【思考・判断・実践】 「命てんでんこ」で避難する ことの根拠を主体的に考え、「命 てんでんこ」の大切さに気付き、 実践しようとしている。(発言・ 話し合い・カード)
事後	○家族と避難後について 話し合い、再確認する。	課外 (家庭)	地震がおきたとき、自分で 考えて避難するために、学習 したことを家庭でも確認し、 実践できるようにする。	【思考・判断・実践】 家族に学習したことを伝え、 自分から実践しようとしてい る。(カード)

4 本時の学習について

(1) 目標

○地震の時、正しい判断をして避難をするにはどうしたらよいかを主体的に考え、自分の身は自分で守ろうとすることができる。

(2) 評価規準

思考・判断 ・実践	「命てんでんこ」で避難することと自分の命を自分で守ることと結び付けて考え、「命てんでんこ」の大切さを考え、家族に伝えようとしている。(発言・カード)	〈努力を要する児童への支援〉 ペアや学級の話し合いから友だちの考えのよいところを見つけて、自分の命を自分で守るといことをカードに考えを書けるようにする。
--------------	--	---

(3) 「備えづくり」のための手立て

<p>ア 一人一人の心に配慮した指導をするために</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の冒頭と終末にリラクゼーションを行い、心をほぐすようにする。</li> <li>・サポートを配置し、個別に声をかけられるようにする。</li> </ul> <p>イ 主体的に考えさせるために</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・状況設定から、自分だったらどう行動するか考えさせる。</li> <li>・「命てんでんこ」について話し合い・交流をし、主体的に考えさせる。</li> </ul> <p>ウ 防災意識を高めるために</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本時で学習したことを生かして、実践するために、家族に伝えるカードを書かせる。</li> </ul>
--

(4) 展開

段階	学習活動 (○主発問) ・期待する児童の反応	○教師の支援	◎評価 ◇目指す児童の姿
つかむ  10分	<p>1 リラクゼーション</p> <p>2 前回の防災教育の学活の想起 ○ 1学期に学習したことはどんなことでしたか? ・部屋の危険な所を見つけて、直した。 ・家族の人と家庭の備えについて確かめ合った。</p> <p>3 ヨシさんの紹介と読み聞かせを聞く。 ・「いきる かかわる そなえる」 P12～13の紹介 ・読み聞かせ 「語りつぎお話絵本 3月11日 2～ヨシばあちゃんの紙しばい～」</p> <p>4 本時の学習課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">「命てんでんこ」ってどういうことだろう？</div>	<p>○気持ちを落ち着かせ、安心して学習に取り組めるように配慮する。</p> <p>○震災時のことを思い出すのがつらくなる児童には、サポートが寄り添い不安を和らげる。</p> <p>○前回は学習したことを想起させ、災害にあうのは必ずしも、家や学校にいるときではないかもしれないことをおさえる。</p> <p>○ヨシさんがなぜ、紙しばいを語りついでいるのかの思いにも触れるさせる。</p> <p>○気になる言葉や繰り返し出てくる言葉に注目して聞くように話してから、読み聞かせをする。</p>	<p>◇目指す児童の姿</p> <p>◇前回の学習を想起している。</p>
ふかめる  25分	<p>5 命てんでんこの意味を知る。</p> <p>6 ペア・学級の意見交流 【いきる】 「命てんでんこ」で逃げることの大切さを考える。 ○「命てんでんこ」で避難するというのはどういうことだと思いますか? ・家に戻らずにひっしで避難する。 ・どこに避難したら、安全なのか考えて一番近い高台へ避難する。 ・家族で約束したことを守って、避難する。</p>	<p>○絵本のおじさんの言葉 「命てんでんこだからな。一人でもうら山へにげるんだぞ。」 に注目することで、津波てんでんこの意味を知らせる。 (地震や津波はいつ、どこで起こるかわからない・・・だから) ・それぞれが自分の命は自分で守る。 ・家族が生きていることを信じて、とにかく逃げる。</p> <p>○「命てんでんこ」で逃げることはどういうことなのかを、ヨシさんの行動とお母さんの行動をもとにして、具体的に考えさせる。</p> <p>○学級の意見交流の前に、安心して自分の意見が発表できるようにペアで意見交流させる。</p>	<p>◇「命てんでんこ」で避難することについて、自分の考えをもち、発表しようとしている。</p>

	<p>7 状況設定から自分だったらどう行動をするかを考え、カードに書く。 【そなえる】</p> <p>あなたは、学校から帰ってから、公園で遊んでいました。そのとき、大きな地震がきて、強くグラグラと揺れました。市の放送で、「津波警報が出たので、避難してください。」と言っています。家には、弟とおばあさんが留守番をしています。</p> <p>あなたなら、この後どう行動しますか？</p>		
<p>ひろげる 10分</p>	<p>9 自分が本時で学習したことで家族に伝えたいことをカードに書く。 【かかわる】</p> <p>10 リラクゼーション</p>	<p>○実践につながるよう、家族に伝えるためにカードを書かせる。</p> <p>○気分を切り替え、心と体をほぐすために体操をする。</p>	<p>◇状況設定から、自分だったらどう行動するかを考え、実践につなげようとしている。</p> <p>◎「命てんでんこ」で避難することと自分の命を自分で守ることと結び付けて考え、家族に伝えようとしている。</p>

(5) 板書計画

